

受領No.1516

女性の理工系分野参入を阻む、大学市場側の要因分析

代表研究者 明坂 弥香 神戸大学 経済経営研究所 助教
共同研究者 奥山 陽子 ウプサラ大学経済学部 助教授



What's holding back women from entering STEM fields?

Representative Mika Akesaka, Research Institute for Economics and Business Administration, Kobe University, Assistant Professor
Collaborator Yoko Okuyama, Uppsala University, Department of Economics, Assistant Professor

研究概要

日本では、女性の大学進学率が男性に追いついてきた一方で、女性の理工学部への進学率は依然として低い。理工学部の中でも、資格取得につながる薬学・看護学等及び教育分野では、女子学生が半数またはそれ以上を占める一方、理工系の分野を専攻する女子学生は少なく、理学で約30%、工学で約15%のシェアに留まる。OECDの報告によると、理工系分野を専攻する女性の割合が低い傾向は、他の先進国でも共通して見られるが、特に日本でこの傾向が顕著である。

経済学・経営学における複数の研究が、性別の多様性を高めることが、チームの生産性を向上させ、斬新なアイデアの創出に寄与することを報告している。故に理工系分野における女性の人材確保は特に重要であり、そのためには既存の人材を重用するだけでなく、より多くの人材を新たに取り込む必要がある。

本研究では、大学・学部のどのような特徴が理工系分野の女性進学率を引き下げているのか、その要因を統計的に明らかにする。これまでに申請者のグループが進めてきた分析から、同じ専攻学部でも、学校間で進学者の女性比率に大きなばらつきがあることが明らかになった。本研究では、受験生を対象とした紙媒体の各種受験情報誌を画像認識・文字認識技術を活用して電子化し、日本のほぼ全体をカバーする大学・学部別のデータベースを構築した上で、どのような制度的要因が女性進学率を引き下げているのかを明らかにする。